

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900940		
法人名	有限会社 グループホーム 夏吉園 (1棟)		
事業所名	グループホーム 夏吉園		
所在地	〒825-0004 福岡県田川市大字夏吉3614番地1	TEL	0947-45-3108
自己評価作成日	平成31年03月25日	評価結果確定日	令和元年06月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所開設以来様々な利用者様の晩年に寄り添いながら夏吉園も成長してまいりました。利用者様の望まれる理想の日々がどういったものなのか、常に迷いながらそこに少しでも近づけるよう努力しております。穏やかに過ごしていただきながらも「美しい」「懐かしい」「楽しい」「明日はもっとできるようになる」といったような前向きな感情が湧き上がるような介護を提供したいと、季節のお出かけや、かつて過ごされた場所へのお出かけ、行事、毎日のレクリエーション活動、リハビリに取り組んでおります。花の季節には特にあちこち出かけていきますが、帰ってきた利用者様は「やっぱりここがいいね」と言ってくれます。地域の方も夏吉園のスタッフの明るい声に安心を感じてくださっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成31年04月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和は毎朝行っているが、月に1度の全体会議で施設長から理念に沿う介護になっているか問われる。長年続けてきた地元公民館での介護予防教室は地域にお住いの高齢の方々にとって毎月の楽しみとなっている。そのご期待に応えるため手作りおやつや新たな参加者の募集など楽しい集まりとなるよう工夫している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には夏吉区の区長や地域のお寺のご住職などにご参加いただき、活動報告や地域の行事への積極的な参加の意思などお伝えしている。機会あるごとに行事に参加し、地域のお付き合いを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室では介護相談も受け付けている。また地域行事など参加される利用者様を通じて施設にいても役割や楽しみがあり、認知症があってもサポートがあれば普通の暮らしがあることを感じていただけるようで、その時の出会いから電話で介護相談をお受けすることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には夏吉区の区長や地域のお寺のご住職、駐在所の警察官、包括支援センター職員、訪問看護の職員などにご参加いただき、それぞれのお立場からのご意見をいただきサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員は毎回運営推進会議に参加していただいている。空き室がある場合には月初めに市役所高齢介護課に報告している。その他事故報告なども取り決め通り行い相談をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修会への参加及び内部の勉強会を行い、身体拘束にあたる禁止行為や、緊急やむを得ないとされる三条件、身体拘束に及ぶまでにふむべき手続きや記録の仕方、身体拘束がもたらす身体的、精神的弊害など学んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修への参加及び内部の勉強会を行っている。利用者様の意思を尊重し、利用者様の尊厳を守る立場であることを常に意識するよう、理念の唱和などを行っている。利用者様へ敬意を払うことをはミーティングで頻繁に議題としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内のケアマネージャーは成年後見人をしており、知識も深いため園内で勉強会を開いて学んでいる。必要な時に対応できるようパンフレットなども用意している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書という文書だけでは伝わりにくいこと、見えてこないことを納得していただくために契約に至る前にご家族様と本人様に夏吉園に来ていただき過ごしていただく時間を作るようにしている。契約に至るまでに職員などとも話をさせていただき疑問を解消されるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置してご意見を常時募集している。苦情などあれば必ず対応するようにしており、ご家族様の訪問時にはお話を伺いするようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月10日に全職員参加の会議を開いている。より良い夏吉園にするための提案を受け付け、話し合いにより形にする機会となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設以来社会保険労務士に相談の上、改訂を重ねながら就業規則、賃金規定を整備してきた。処遇改善金なども活用して実績や経験が評価される内容となっている。労働時間も職員一人一人の事情をくみ働きやすい環境づくりに努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集採用に当たって性別や年齢についてはむしろ多様性を歓迎している。働く気持ち、利用者様とのかかわりを大切に思う気持ちを採用の基準にしている。法令に基づいた無理のないワークライフバランスを実現できるよう配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「信頼関係を作り人としての尊厳を大切にする」理念の実現ができていないか、機会あるごとに職員に問いかけ、この理念が利用者様とのかかわりかたの基本であることを会議のたびに伝えている。人権に関する研修会にも参加をして内部の勉強会にも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ多くの職員に外部の研修に参加してもらい、内部での伝達研修を行っている。研修に参加する際には職員の負担にならないよう勤務日程の調整を行い、研修に参加する社員、職場に残り勤務する社員双方に配慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田川地区サービス事業所協議会グループホーム部門の副部長を務め、同業事業者との情報交換や連携を密に図っている。事業所協議会では毎年交換研修として、他事業所職員の見学受け入れと他施設見学を行っている。記録様式、レクリエーションなどテーマを決め学び、質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前にご家族様と一緒にご来園いただき、レクリエーションに参加していただいたり、食事も一緒にいただくようお願いしている。入居初期は職員が特に他利用者様との関係の橋渡しに気を配り、ご家族様にもご協力いただき孤立を避ける配慮をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の初期には利用者様の不安解消のためにも職員とお話する機会を作っていただくためにもご家族様のご訪問を頻回にさせていただく。そうすることでご家族様と打ち解けてお話をすることができ、ご家族から希望などを聞くことができるようになる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と丁寧に話し合いを重ねること、介護士の経験、医療関係者からのご意見など複数でチームによる介護を行い、利用者様への適切な支援を探っている。訪問看護事業者とも連携することで利用者様に必要な支援を行う幅が広がったと感じている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	夏吉園の利用者様はそれぞれが得意な仕事がある。毎日行うことで生活にリズムができ、職員が口々にお礼を述べることで誇りをもって仕事に取り組んでくださっている。「大家族なんだからなんでもするよ」と張り切って応じてくださる利用者様もいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関係を大切に、いつでも面会に来てくださるようお願いしている。ご病気や利用者様の変化を感じた時にはお電話でご連絡し、ご訪問をお願いしている。また、体調の変化などからその時々で変わってくる介護用品などの買い替えなど、ご相談の上行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなくご親戚やご友人が訪ねてくれることが多く、行事の時にはそういった方も招待している。また、地域の行事も利用者様が馴染みのある方とお会いする良い機会なので、積極的にお連れするようにしている。法事、正月といったご親戚が集まる機会にも参加できるよう支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の野菜の皮むきや洗濯物をたたむ作業など自然に1か所に集まる機会を作り、その時の利用者様同士の会話が和やかになるように職員が間に入る。また作業に参加できない方も孤立感を持たれないようテーブルを複数名で囲む形でお互いの顔が見えるよう配慮している。利用者様同士の会話に注意深く耳を傾け、攻撃的な発言などがあつた場合はすぐに割って入り、長引かないようにして		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期となり退所になった場合もお見舞いに行きご家族様との関係も大切にしている。また葬儀や初盆には必ず参列している。退園された方との思い出をアルバムにしてご家族様にお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入所の契約時にはこれまでの暮らし方や職歴、ご趣味などあらゆることをお聞きし、本人をより深く知るよう努めている。ご本人が喜んで話してくださるキーワードを見つけ、職員間で共有し、お話を引き出すきっかけにしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握はご本人とお話する大切なきっかけになるので、入居時にご家族に詳しくお伺いするようにしている。他施設や病院を退院してこちらへ来られた場合など情報提供書をいただきご本人さんを知るための資料として個人ファイルに保管している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援記録には日常の流れとともに、ご本人らしさが感じられるようなやり取りやご様子を記録するようにしている。今有する力は将来少しずつ失われる。その変化が把握できるように今できていることを記録にきちんと残せるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した、利用者様本位の介護計画を作成するために利用者様やご家族様からの意見やご要望、不安なことなどをお聞きし、担当者会議で検討し、また主治医や職員とも話し合い、介護計画を作成している。利用者様の状態の変化に合わせて介護計画の見直しも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	より本人らしさが把握でき、職員間の情報も共有しやすい記録を考えてまた様式を変えてみた。膨大な記録から埋もれがちな情報は特にミーティングなどで報告し、ミーティング記録や伝達ノートに記録もしている。熱計表、水分記録、所在表その時々の特記ノートなどあらゆる記録で利用者様の把握に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が今までかかわってきた方々との大切な関係を維持するため、ご家族や地域の方に対して利用者様をサポートしながら園内でのおもてなしや地域活動の参加、家族行事の参加など利用者様の世界が園内のみにとどまることがないように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様がかかわってきたご縁が途切れることないように、利用者様が地域の一人としての役割を担えるように利用者様の社会参加を支えている。地域の祭りでも夏吉園に立ち寄りおみこしのお接待係として利用者様にできることをしていただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当園には内科及び眼科の往診もあるが、利用者様の今までのかかりつけへの外来受診、その時々病気に応じた外来受診、訪問看護など、利用者様の状況やご家族との話し合いにより様々な対応をとっている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	園内の看護師には病気に関する知識を得るための勉強会を開いてもらっている。園内の看護師だけでなく利用者様が個人的にご契約されている訪問看護がある場合にも病気になられた時の見守りのポイントや受診時に医療機関に伝えるべき内容、受診の判断の相談などしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護士が必ず付き添い利用者様の日々の様子を伝える。地域連携室とは日頃から関係を大切にしている。入院中は職員ができるだけ昼夕二回の食事の介助に行き、利用者様の退院が早くそして退院後の生活がスムーズにいくよう関係者との連絡に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に交わす契約書の中でターミナルケアについて触れている。病院と施設での見取りの違いなど説明し、入居時には最後までご希望されるご家族が多いものの、その時々で揺れるご家族様のお気持ちに添えるよう何度もご家族と主治医、看護師、介護士を交えた話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDは園内に設置しているもののいざというときにきちんと使用できるよう、毎年訓練を行っている。地域やサービス事業所協議会での研修など機会があるごとに職員は研修に参加し、実践力を身につけている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員にご指導いただく避難消火訓練は毎年行い、通報訓練は毎日行っている。利用者様を外にお連れする避難訓練は春と秋に行っている。避難用具は押し入れや離れの倉庫など分散して置き、地域の公民館にも避難用具を置かせていただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の今を見るだけでなくご家族からお話をお聞きして過去のご活躍を知り、誇りを大切に、目上の方への敬意を忘れず、丁寧に向き合うことを心がけている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話を大切に、ご希望をくみ取るよう気を付けている。また毎日の献立の相談をしたり、お買い物にお連れして野菜を選んでいただいたり、選択することを楽しむ時間を作るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決定は利用者様がされることなので職員は押し付けにならないように配慮した言葉かけを行うように気を付けている。起きる時間寝る時間は利用者様の生活習慣を優先し、入浴、運動、病院受診の予約などは利用者様のペースで無理のないように考えている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	園長が経営する美容室が敷地内にあり月に1度ほどのペースでお連れする。女性だけでなく男性も美容室に行くことを楽しみにしておられる。行事や外出時は美容師に来てもらい、髪をセットし、お化粧をしてもらう。洋服は寄付をいただくことが多く、サイズの合う方へ活用させていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決めや買物、野菜の皮むきなどに参加していただき、家事に参加することを楽しんで頂いている。食事のお席は利用者様同士の相性に配慮し、楽しい時間となるように心がけている。食事の後片付けも張り切って参加して下さっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様のお薬やご病気に合わせて野菜、白米量、果物などの調整をしている。その日の体調により食べる量が少ないときはのど越しの良いものにすぐに切り替えて提供するようにし、栄養不足にならないよう気を付けている。食事の形態は普通食、小刻み、荒刻み、ミキサーなど利用者様の状態で細かく分けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを必ず行い利用者様も習慣となっている。ご自身で歯磨きが難しい方にもまず歯ブラシを手にもっていただきそれから職員が介助に入るようにしている。口腔ケアに関する研修にも参加している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄を表にし、パターンをつかむようにしている。食事前、運動の前、おやつの前、お風呂の前とといったようにお声掛けすることで気持ちよくトイレに立っていただいている。麻痺を発症されてもなお自宅にいたところと同じようにと固執されている利用者様への対応はプライドを傷つけないよう試行錯誤が続いている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は地元の旬の野菜を多く使った献立で食物繊維も意識した内容になっている。水分は一日に何度も提供し、お茶、麦茶、スポーツ飲料、生姜湯、紅茶など種類を変えて飽きずに飲んでいただけるよう工夫している。テレビ体操や音楽に合わせての運動、歩行訓練、自転車こぎ、散歩など利用者様の状態に合わせた運動をしていただいている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には月、水、金ではあるが、利用者様の体調や希望によりそれ以外の日も対応している。お風呂を嫌がられる方には、時間、場所、職員を色々変えながら思い立っていただけるまで何度もお声掛けする。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の傾眠時間を削り夜間ゆっくりと寝られるように、レクリエーションや、脳トレ、買物、リハビリ体操などで日中の時間が充実したものとなるようにしている。就寝時間は利用者様が決める。一人になりたくない方は広間で寝ることができるように寝具をセットしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明がすぐに確認できるように個人ファイルに管理している。かかりつけ医とともにかかりつけ薬局を決めることで診療科や、病院が違って薬の飲み合わせや処方期間など配慮していただくことができている。薬の変化による症状の変化など次回診察時に医師に報告できるよう注意深く記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様には役割を持っていただき、やっていただいた仕事に対して職員は丁寧にお礼を言うようにしている。お祭りや、花見、花火大会の時にはビールを楽しまれる。これからの季節はお花見ドライブで頻繁に出かける機会を作る。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出しやすい季節にはお花見ドライブ外出をする。集団を嫌がられる方には個別にドライブに連れ出し、喜んでいただいている。地域の行事にもお誘いいただき出かけている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はほとんどの方が自己での管理が難しいことから園で管理している。何名かお金をご自身で所持している方もおられる。ご家族には同意をいただいている。利用者様が管理しているお金が他の利用者様とのトラブルにつながらないように細心の注意を払って支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月開かれる絵手紙教室で描いた作品をご家族やご友人に送られている。電話は先様のご迷惑ではない時間ならいつでもかけられるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	この冬は車いすの方も入ることができるようテーブルにこたつをしつらえ、風呂上がりの髪を乾かす前に冷えることが無いよう廊下の一部をカーテンで仕切りストーブで暖かい空間を作った。新しい利用者様を迎えるときには居室の畳と壁紙を張り替えきれいなお部屋にお迎えしている。カウンターや玄関などには季節の花を飾り季節感を取り入れている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間や廊下、玄関などソファーやいすを置いているので、トイレ待ちの時などに腰かけられたり、ただ何となく腰かけられたり、楽しくおしゃべりされたりしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はほぼ同じづくりでも、お部屋の雰囲気は利用者様の個性を反映して全く違う空間が出来上がっている。家で使っていたタンスやこたつ、お仏壇を持ち込まれ、壁にはご自身が作られた作品や、お写真を思い思いに飾られている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室のドアには利用者様のお写真を飾り、トイレにはわかりやすい看板を付け1棟2棟のつなぎ目の段差には注意書きを張っている。		